



30% Club Japan 『TOPIX 社長会』第 1 回トップ会議を開催しました



12月20日 30% Club Japan に参加する日本企業 12 社のトップ^(*)が集結し、日本企業における女性活躍・ダイバーシティの推進に向けた本質的課題について活発な議論を展開した。

30% Club Japan は、「ダイバーシティ&インクルージョンにより、日本企業の持続的成長と発展を実現する」「男女が平等に参画する、生き生きした、豊かな日本の社会を作ること」に貢献する」という 2 つのビジョンを掲げている。この実現において、上場日本企業等の 100 社をメンバーとし、経営者自らが主体的に活動に取り組むコミュニティの構築と、日本企業の現状、独自風土に応じた取り組みが必要という各社トップの意向により、30% Club Japan 『TOPIX 社長会』を発足することとした。

30% Club Japan 『TOPIX 社長会』は、30% Club Japan メンバーである会長・社長による「トップ会議」と、女性活躍に関する実務推進責任者である各社の担当役員・責任者による「実務者協議会 (PM チーム)」で構成。実務推進責任者が加わることで、会全体としては男女 50:50 の参加者による議論と活動が展開されることとなる。

PM チームはトップ会議より一足早く、12月2日にキックオフミーティングを開催しており、12社19名が参集。トップ会議での審議テーマについて意見交換を行うと同時に、今後も2カ月単位程度の開催により、情報交換はもちろんのこと、ベストプラクティスの共有などトップ会議と連携しながら活動することを確認した。

また、30% Club の特徴である統合的アプローチ(機関投資家、政府、メディア、プロフェッショナルファーム、エクゼクティブサーチファーム、大学等)とも連携し、様々なイニシアチブを展開することで、効率的・網羅的に企業のダイバーシティの実現を図っていく。

第1回目のトップ会議は、30% Club Japan の魚谷会長(資生堂 代表取締役社長 兼 CEO)によるウェルカムメッセージからスタートし、その後12社の会長・社長一人一人から「TOPIX 社長会への期待」「女性登用による社内の変化・効果」など、今後の取組に対する強いコミットメントが発信された。

事前のアンケートや社内でのヒアリング活動の結果を受け、「日本企業において女性活躍を阻んでいる問題は何か」についてPM チームを代表し、味の素の野坂取締役から女性たちの象徴的インサイトを10例紹介した。

また、世界経済フォーラムが発表したジェンダーギャップ指数ランキングで11年連続1位のアイスランドの事例にも触れながら、「男性社会に女性を入れていく」というクォーター視点からのアプローチと「男女は異なるという前提にたった育成や評価」というアプローチの両方が必要であると問題提起し、これを受けてトップ間で活発なディスカッションが繰り広げられた。

トップ間のディスカッションでは、PM チームから提示された女性活躍を阻む問題(インサイト)について参加トップたちがこれに反応し、次のような本質的意見が活発に交わされた。

- 既成概念をいったん否定してみる事が大事。男性が作り上げた現在のルールをリセットして、ゼロベースで考えなおす時代が来た。女性が意思決定に加わることで、ルールが変わり、ゲームチェンジが可能になる
- 日本の「インクルージョン」について違和感を持つ。日本ではマジョリティがマイノリティを上から目線で「入れてやっている」という印象を受ける。ダイバーシティを尊重し、真の50:50を目指さなくてはならない
- つい、「女性ならではの視点を生かして」と悪気なく言う男性上司。男性社会が前提にあり、その中の「女性枠」でくられてしまうことに対して女性が持つ違和感とモチベーションの低下に対し認識が必要である
- メンバーシップ型雇用を前提としながら、今後これをより良い形にするために何をやらなければならないのか。ボーイズクラブに道を開けさせ、女性を入れていく。男性にも納得させるためのメジャーメント、考え方について「会」としての発信を検討したい

- あえてジェンダーを区別した育成やキャリアパスを構築するのも考え方の一つ。ライフイベントの影響を受けやすいのは女性であり、それを踏まえた育成やキャリアパスを構築する必要がある。その実行にはトップ自らの強い意志が重要である
- 「日本独自のダイバーシティ」を考えることは重要。一方で海外の発想を理解した上で、日本人らしさ、日本の良さを活かすことを考えないと、グローバル競争では負けてしまう

ディスカッションの最後には魚谷会長より「“Sustainability or Die”という考え方もある。サステナビリティのためにはダイバーシティは欠かせない。本日の議論を受け、今後は PM チームと連携しながら課題の解決に向けたアクションを検討し、出来るところからクイックに進めていく」とまとめた。

また、30% Club Japan 『TOPIX 社長会』の発足を受け、Quick win action として PM チームの大和証券グループ本社の白川執行役常務より「30% Club Japan 参画企業メンバーと女性幹部候補者との交流会」が提案され、2020 年早々からプログラムをキックオフすることが確認された。当交流会は TOPIX 社長会参画企業で働く女性幹部候補(10 名程)とメンバー(各回 1 名)が双方向で交流する会。メンバーは自社のみならず他社の女性幹部候補者と対話することで、課題解決に向けたより深いインサイトをから得ることが可能となり、一方で女性幹部候補は他社のトップから直接経営の視座を学ぶことが出来ることに加え、女性幹部候補者同士のネットワークを構築することが可能となる。

30% Club Japan 『TOPIX 社長会』は、今後も年 2 回程度の開催とし、日本企業における女性活躍を阻む本質的課題の解決につながるアクションを進めながら、女性の経営参画のスピードアップを図る。次回は 2020 年 5 月に開催予定。

(*1)第一回 30% Club Japan 『TOPIX 社長会』参加メンバー(冒頭写真前列右側より時計回り):

- 花王株式会社 代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆
- キリンホールディングス株式会社 代表取締役社長 磯崎 功典
- 株式会社 資生堂 代表取締役社長 兼 CEO 魚谷 雅彦
- 株式会社大和証券グループ本社 取締役会長 日比野 隆司
- 東京海上ホールディングス株式会社 取締役社長 グループ CEO 小宮 暁
- 株式会社テレビ朝日 代表取締役社長・COO 亀山 慶二
- ANAホールディングス株式会社 代表取締役社長 片野坂 真哉
- 第一生命ホールディングス株式会社 代表取締役社長 稲垣 精二
- 株式会社新生銀行 代表取締役社長 工藤 英之
- ユニ・チャーム株式会社 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久
- 株式会社日立製作所 代表執行役 執行役社長兼 CEO 兼取締役 東原 敏昭
- 味の素株式会社 代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 西井 孝明





